



発行日 2003年12月25日

発行人 藤川享胤 編集責任者 浅井宣亮 編集委員 太田 菅原 館盛

発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒164-0002 東京都中野区上高田1-27-6

Tel. 03-3361-0614 Fax. 03-3361-0634 URL: http://www.soto-zen.net/

郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.24



ハワイ開教100年記念祝賀法要（ハワイ・オアフ島）

CONTENTS

●巻頭 「曹洞宗ハワイ布教100周年」に参加して	大本山永平寺副監院 松永 然道	1
●特集 曹洞宗ハワイ開教100年	館盛 寛行	2
ハワイ開教100年記念祝賀法要	館盛 寛行	4
パネルディスカッション（日本語会場）	菅原 研洲	6
パネルディスカッション（英語会場）	浅井 宣亮	7
●曹洞宗北アメリカ国際布教80周年	大谷 有為	8
●第5回ゆめ観音アジアフェスティバル報告	亀野 哲也	10
●アメリカの仏教書 前角博雄老師の本	ヴァレー 禅堂堂頭 藤田 一照	12
●海外レポート ハワイ マウイ満徳寺での短期体験記	埼玉県宗福寺副住職 井上 智晴	14
オランダ アウトハイゼン「禅川寺（ZEN RIVER）」晋山式	静岡県慶昌院住職 磯田 浩一	16
●SZI10周年記念 SOTO禅インターナショナルの10年	福島 伸悦	18
●SZI通信 聖護寺国際安居レポート	大谷 有為	20
夏期大学講座「禅といま」随喜報告	太田 賢孝	21
寄付者・会費納入者名簿		21
動静報告		21
●ハワイ開教100年記念募金報告		22

巻 頭

「曹洞宗ハワイ布教100周年」に参加して

大本山永平寺副監院 松永 然道



曹洞宗にとって、今年はハワイ布教の100周年、北米布教の80周年に当たる。SOTO禅インターナショナル（SZI）結成10周年にも当たる。

曹洞宗の海外布教に関心を持つ会員により構成されるSZIは、国内外で行われる宗門関係の諸行事に積極的に参加し、お手伝いをするを会の活動の一つとしている。この度、ハワイ総監部の要請をうけ応援参加した。650名以上の日本からの参加者をしてハワイの布教師や檀信徒との交流、研修が出来たことはSZIの10周年にとって大きな成果であった。

曹洞宗の海外布教は、1903年ハワイ・オアフ島ワイパフ太陽寺とカウアイ島禅宗寺に開教所を設けて、日本人移住者の慰問布教をしたのが始まりであった。今日、ハワイは常夏の楽園と言われ、日系居住者も多く、たと

え言葉が知らなくても安心して行ける外国の観光地である。しかし、日本人移民の今日迄の100年の歴史には言葉には尽くせない重い苦しいものもあった。

このたびの記念行事の一つに「ハワイ曹洞宗100年、その過去と未来」と題してパネルディスカッションが企画された。それは、現在曹洞宗を含めた海外での仏教布教、ひいては宗教が直面している転換期にあって、原点に返ってハワイ曹洞宗の歩いてきた道、現状を見つめ直すことがアンテナショップとして何らかの示唆を与え得るのではないか、との願いが込められていた催しと感じた。

ハワイは虹に例えられるように、多くの民族、宗教、文化、言語、伝統、歴史を受け入れている。米本土とは一風違った平和社会を誇っている。

混沌として闇に覆われたこの現在の地球社会に、希望と安穩を与え続ける島々と共に曹洞禅が厳然として存在し続けてゆく事を願う。

SZI10周年／ハワイ開教100年特集

曹洞宗ハワイ開教100年 新しい時代へ 希望を込めて まごころと調和と・・・

SZI事務局 舘 盛 寛 行（神奈川県梅宗寺内）



SZIは設立10周年という節目の年に、ハワイ開教100年記念祝賀行事に対し全面的に協力をする方針で活動を進めてきました。これまで会報等を通してハワイ寺院の現状を報告してきましたが、2003年2月には「ハワイ開教100年 現状と未来」と題して各宗派のハワイ開教経験者を講師にお願いしてシンポジウムを開催しました。そこでは、信仰や言語の問題が取り上げられ、ハワイの現状を学びつつ、これからの日本仏教の未来を考えさせられました。そして、ハワイ開教100年記念募金を募り、多くの方々のご協力を得ることができました。そうした数多くの方々のハワイ寺院に対するご理解の下で、2003年10月25・26日にハワイ・オアフ島シェラトン・ワイキキ・ホテルを会場としてハワイ開教100年記念祝賀行事が執り行われました。日本からは各都府県の参拝団、SZI参拝団を含め約650名の参加があり、ハワイやアメリカ本土、世界各国からは約650名、合わせて約1300名以上の参加がありました。

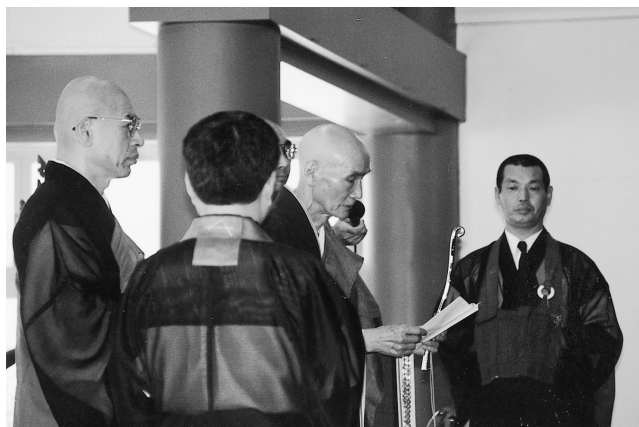
SZI参拝団は26名の参加者と共に10月23日に日本を

発ちハワイへと向かいました。ヌアヌパリやパンチボールなどを見学し、その後ハワイ別院へ拝登しました。初めて訪れたハワイ別院はインド仏教の寺院風でもあり、教会風でもあり、日本とは違う独特なものを感じました。仏教は伝えられた国によって様々な文化と融合してきましたが、ハワイスタイルを改めて実感しました。25日にはシェラトン・ワイキキ・ホテルを会場としてアロハ歓迎交流晩餐会が行われました。晩餐会には900名を超える参加があり、中華料理を食しながら、各団体の紹介、フラダンスショー、ボンダンス（盆踊り）を楽しみながら、翌日の記念祝賀法要の成功を祈り、ハワイの方々との交流を深めました。特にボンダンスはハワイにとって新たな人々との出会い、そして、お互いの心を結びつける力があるといわれています。当日は炭坑節、福島音頭などをハワイの方々と共に踊り、さらなる交流を深めました。25日の夜には翌日に祝賀法要を控え、SZIスタッフとハワイ国際布教師の方々、現地のお手伝いの方で仏具の搬入・確認、記念品の袋詰め等が深夜まで行いました。身心ともに疲れはありましたが、現地の方々と共に汗を流しながら一つのことを創り上げていく経験は心地よいものがありました。26日は午前9時30分よりハワイ開教100年記念祝賀法要が執り行われ、開会式、先亡開教師回向、檀信徒総回向、100年慶祝法要、100年記念祝賀顕彰式が行われ、午後は記念祝賀昼餐会が開催されました。昼餐会では、SZIより日系のクアキニ病院への寄付金贈呈が行われ、また、最後は手を取り合いながらアロハオエの大合唱で閉会しました。ハワイの100年を想い、そして未来に希望を託しつつ、再会を信じてハワイ開教100年記念祝賀行事は幕を閉じました。



曹洞宗両大本山ハワイ別院拝登

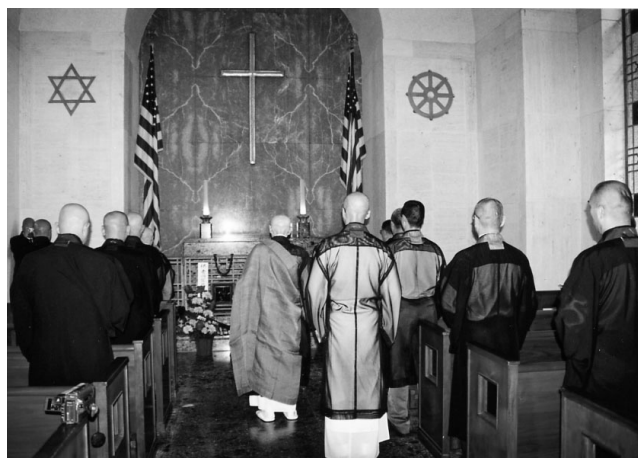
10月23日、SZI参拝団と共に曹洞宗ハワイ別院へ拝登しました。ハワイ別院はハワイ国際布教総監部が置かれ、正法寺と名付けられています。ハワイ別院拝登は各団体が23日から28日にかけて随時実施し、記念行事参加者全員（650名）が参拝をしました。SZI参拝団が拝登した日時には曹洞宗管長御代理・大本山總持寺副貫首齊藤信義老師を導師とし、曹洞宗宗務総長有田恵宗老師を先導師として法要が営まれました。その後、SZI副会長福島伸悦師よりハワイ国際布教総監町田時保老師へ記念品の贈呈が行われました。



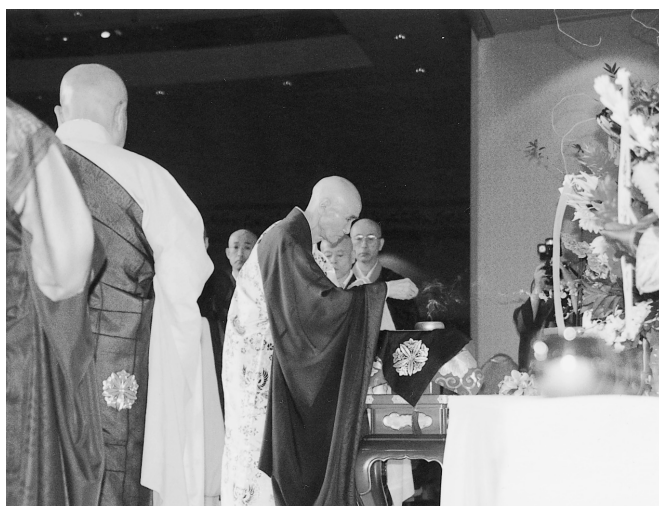
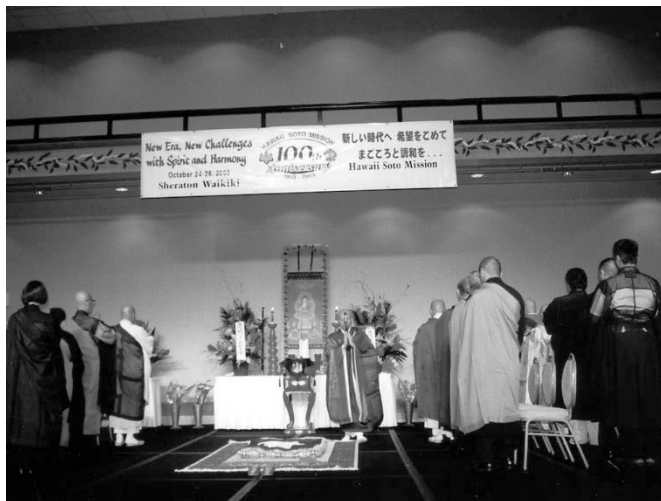
太平洋国立記念墓地礼拝堂にて戦没者慰霊法要 日系人墓地にて慰霊法要

10月24日、パンチボールにある太平洋国立記念墓地礼拝堂にて戦没者慰霊法要を執り行いました。地名のパンチボール（Punchbowl）は、ハワイ語で休息の丘を意味し、第二次世界大戦やベトナム戦争の戦死者約2万人が埋葬されています。また、日系人の地位向上に貢献した日系二世部隊もここに眠っています。礼拝堂内の正面には十字架（キリスト教）、左にはダビデの星（ユダヤ教）、右には法輪（仏教）が掲げられています。これは国立墓地において仏教が正式に認められていることを示し、先人の努力の象徴といえます。

法要は齊藤信義老師を導師とし、有田恵宗老師を先導師として営まれました。ハワイ側では町田時保総監、吉田宏得師が随喜し、SZIからも福島伸悦副会長、瀧澤和夫副会長、西澤応人師、浅井宣亮師、亀野哲也師、館盛寛行の6名が随喜しました。その後、日本人移民の墓地（2カ所）で同様に法要が執行され、先人の努力と苦勞に対し敬意を表しました。日本人移民の墓地は日系人によって管理され、日本の墓地とほぼ同様の光景が見られます。墓地からも多くの日本人がハワイに渡り、地域に根付いていった様子が伺えました。



ハワイ開教100年記念祝賀法要



2003年10月26日、ハワイ・オアフ島シェラトン・ワイキキ・ホテルを会場にハワイ開教100年記念祝賀法要が執り行われました。

法要には、大本山永平寺副監院松永然道老師、大本山總持寺布教部長大山陽堂老師、曹洞宗宗務庁教化部長宮川敬學老師、前ハワイ開教総監松浦玉英老師、南アメリカ国際布教総監三好晃一老師、北アメリカ国際布教総監秋葉玄吾老師、宗議會議員・SZI副会長瀧澤和夫老師等が壇上に並び、ハワイ国際布教師として、駒形宗彦師、吉田宏得師、田宮隆児師、板垣光昭師、秋田新隆師、穀藏良尚師、酒井俊晃師、大山健治師、そして中出メリー・ベス慈光師が両班につきました。

ハワイ・日本を合わせ1300名以上の人々が見守る中「祝賀式典開会セレモニー」「先亡開教師回向」「檀信徒総回向」「100年慶祝法要」「100年記念祝賀顕彰式」の5つの式典・法要が厳かに執り行われましたが、特に注目すべき点は各法要中に讃仏歌が取り入れられていることです。メンバー（檀信徒）の方々も含め一同で讃仏の歌を歌う姿は壮観であり、法要に一体感を与えました。

■祝賀式典開会セレモニー

日本より移民した一世の先祖から、脈々と今に伝わる心と夢を表し、その労苦を讃えかつその恩恵に感謝する儀式の始まりとして、萬燈100器点灯、献華焼香、献納太鼓（福音）演奏等が行われました。

■先亡開教師回向

導師：曹洞宗宗務総長 有田恵宗老師
布哇國際布教百周年先亡開教師回向諷經 香語

可知開教幾辛艱 不息熱意便忘還
踏破百年先哲勞 夕陽鮮美布哇灣
維時二〇〇三年十月二十六日

曹洞宗宗務総長 有田恵宗

（編集の都合上、横書きをお許し下さい。）

大悲心陀羅尼の読経で先亡開教師遺族が焼香し、普同三拝の後、讃仏歌として「When We See the Golden Sun」を一同で歌いました。

■檀信徒総回向

導師：ハワイ国際布教總監 町田時保老師

修証義の読経で各寺理事代表者が焼香し、その後、「Shiguseigan」（四弘誓願）を讃仏歌として歌いました。

■100年慶祝法要

大導師：曹洞宗管長御代理・大本山總持寺副貫首 齊藤信義老師

先導師：曹洞宗宗務総長 有田恵宗老師

ハワイ開教百周年記念慶祝法要法語

春秋百歳面目周 靈光不断恁麼流
四海映影大悲意 祖道行環深恩酬

恭惟這日

ハワイ開教百周年記念 慶祝法要令辰

謹而就大会場御本尊眞前

備香華灯燭如法奠供 諷誦般若心經
所集功德

供養

大恩教主本師釈迦牟尼佛

高祖承陽大師太祖常濟大師

上奉酬宏大慈恩

伏冀

佛日回光一条路 普門示現太平謳

容納

（編集の都合上、横書きをお許し下さい。）

三宝御和讃で大導師が入堂し三帰依が「Vandana Ti - Sarana」として歌われました。般若心経読誦後、ハワイ連合婦人会会長板垣緻枝夫人によりお誓いが行われました。その後、同行御和讃、「The Syomyo」（称名）が歌われました。

■100年記念祝賀顕彰式

特別功勞者、永年勤続開教師夫人の紹介が行われました。



ハワイ開教100年

パネルディスカッション（日本語会場）

SZI事務局 菅原研洲（宮城県城國寺内）



今回のハワイ開教100年記念行事のプログラムであるパネルディスカッション（日本語会場）は、シェラトン・ワイキキ・ホテルにて、現地時間10月25日午後2時30分より、約140人の参加者で行われました。

冒頭に今回のハワイ開教100年記念行事のホスト側であるハワイ総監部・町田時保総監老師から企画の内容説明、曹洞宗の過去・現在・そして将来を語るパネルディスカッションを座談会的な形で進めていくことと、町田先生を含めた4名のパネラーが紹介されました。

始めに、かつてハワイ大学の客員教授として一年滞在された駒澤大学学長の大谷哲夫先生が、ハワイに於いて、全く異国の宗教である仏教が、ハワイ移民とともに入り100年が経ち、一世二世から、日本語に不慣れな三世四世への代替わりに伴う言葉と文化の転換に、どのような手法を取りうるかを、他のハワイに入った日系宗教との比較を通して発表されました。元来ハワイとは後にアメリカ本土に入っていく際の足がかりとしてあったわけですが、時間を経る間に、ハワイの仏教になっていったことが指摘されました。ハワイでは、日本の檀家に対応する「メンバー」を中心に信仰を守っており、日本同様「家」に基づいた祖先崇拝を行っています。現在では、「個」の信仰への転換期にあることを、日本語の衰退、日本文化の喪失を理由に説明され、そのような「メンバー」は日本の檀家よりも開教師へ求めるものが多いので、芯のある開教師を一刻も早くハワイで育成することを主張されました。そして、従来からのハワイ独自の布教活動、キリスト教教会の日曜ミサに相当する日曜読経会、聖歌合唱、アーメン等に相当する「信仰を裏付ける言葉」の浸透、或いは教会を意識した建

築様式などが紹介され、今後の活動方針の一例としてハワイに建てられた本派本願寺のハイスクールを挙げられ、宗派による教育活動の一層の充実を指摘され、各宗派単位だけではなく仏教徒として共通の理念・言葉を制定するなどの地道な運動が繰り返される間に、英語・欧米文化に根差した「個」へ訴えるハワイ仏教が育ちつつあることが指摘されました。

続いて大本山永平寺にて国際部に居られ、開教師でもあった松永然道先生より、御自身のブラジル・ハワイでの開教の経験を通して、現場に身を置くのであれば当たり前のように成される世の中の変化を良く見極め、対応した布教を「四摂法」などに基づき実践するべきであることと、それを担う現在活躍している国際布教師さんへのエールを送られました。そして、開教100年の間に着実に曹洞宗のハワイ仏教文化というべきものが根付きつつあることを発表されました。

大本山總持寺からは国際布教に携わり、やはり開教師であった大山陽堂先生が、御自身開教されたときのハワイならではの苦労を話されましたが、明確な信仰を持って臨めば、様々な社会・文化の変化にも対応して、布教を続けていけるのではないかとされ、ハワイでは国際布教師自身のみならず寺族さんの篤信さが不可欠であることにも言及されました。

大谷先生のご発表を中心に進められたパネルディスカッションは、今後のハワイ布教に一石を投じるものになったと、当日の盛大さから思いつく報告にかえさせていただきます。



ハワイ開教100年

パネルディスカッション（英語会場）

SZI会報編集長 浅井 宣 亮（愛知県地藏寺）

日本語で行われたパネルディスカッションと同時進行で、英語による討議も別室で開催されました。これは、現在ハワイに住む日系人の多くが英語を話し、日本語が苦手であるためです。およそ100名の参加者たちがパネラーを中心として活発な意見交換をしました。詳細な報告は紙面の都合上無理ですので、ここでは参加した筆者の感想を述べさせていただきますと思います。

日本語会場では、日本から来た参加者にハワイの状況を知っていただくために、ハワイの"過去"に関する発表もありましたが、こちらの参加者のほとんどはハワイ在住の方でしたので、ハワイ仏教の"将来"に関する発表が中心でした。ハワイ大学のジョージ田辺氏の司会で始まった会議でしたが、印象に残ったことがいくつかありました。

ハワイ別院のオルガン奏者で長い間その日曜学校で教えていた吉本女史は発表の中で、「・・・お寺に人手が足りなくて困っていても、開教師の方々が何とか頑張ってやってしまいます。すると、私たちはお寺には何も困ったことはないのだと思ってしまいます。人手が足りないときは、遠慮なく声を掛けて欲しい。そうすれば、お寺と檀信徒との距離もっと縮まるのではないのでしょうか。」と述べられました。

ハワイ本願寺の松本師は、「ハワイ仏教の未来のためには、すべての仏教各派が手を結び、互いに尊敬の念を払って協力する必要がある。」と訴えられました。また、ハワイのコナ大福寺で田宮国際布教師の補佐をされているメリー・ベス師は、大福寺では若い世代を中心とした坐禅グループが活発な活動をしていると報告されました。

駒形国際布教師のお弟子さんである駒形宗二師は、



日本語が苦手な世代にとっての、"言葉の壁"について述べられました。そして、文化の変化に対応した新しい伝統を創っていくことがハワイ仏教の将来に必要だと、訴えました。

今回の討論では、パネリスト以外の参加者からも、積極的な発言や質問が相次ぎました。きちんと自分の意見を述べ、相手の言い分を聞き、疑問があったら再度質問する。日本に住む筆者の目には、英語を母国語とする日系人は（当然の話かもしれませんが）アメリカ人なんだと映りました。そして、曹洞宗も、海外で根付いて行くには、根本となるところは押さえつつ、実状に合わせて変化することも必要だろうと感じました。司会のジョージ田辺氏は以前に自身の論文の中で、ハワイの日本仏教は衰退していくと書かれたことがあります。しかし、今回の討論会の終わりには、「ハワイにおける曹洞宗の"新しい未来"を楽しみにしています。私の昔の論文が間違っていたことを皆さんで証明して下さい。」と述べられました。



曹洞宗北アメリカ国際布教80周年

SZI事務局・元ハワイ国際布教師 大谷有為（東京都長泰寺内）

2003年10月15日から、19日まで5日間にわたり、カリフォルニア州ロサンゼルスにある両大本山北米別院禅宗寺にて、曹洞宗北アメリカ国際布教80周年、並びに北米別院禅宗寺創立80周年記念行事が厳修された。

主な日程は以下のとおりであった。

10月15日（～19日）80周年記念授戒会

戒師 板橋興宗禅師（管長御代理）

教授師 南沢道人老師（永平寺監院）

引請師 野田大燈老師（總持寺後堂）

10月18日 北アメリカ開教物故者諷經

大導師 宮川敬學老師（宗務庁教化部長）

両大本山北米別院禅宗寺開山歴住諷經

大導師 大竹明彦老師（前宗務総長）

10月19日 80周年記念慶讃法要

大導師 有田恵宗老師（宗務総長）

80周年記念昼餐会

80周年記念慶讃法要と授戒会を軸に、綿密に計画された各プログラムは、実にスムーズに運営された。実質的には、法要と説教に多くの時間が費やされたが、効率よく日本語から英語への通訳を入れることにより、聴衆の集中力は最後まで途切れることはなかった。

日程の最後に行われた80周年記念昼餐会には、300人以上もの方々が出席され、諸行事の円成を盛大に祝った。

今回の数多くの行事の中でも、約120名もの戒弟（参加者）を集め、5日間にわたり、日本と同様の差定において厳修された80周年記念授戒会は、北米別院禅宗寺にとっても、また、国際布教という意味においても、非常に意義のあるものであったと感じられた。

なぜなら、5日間すべての修行を終えた後の、戒弟各人と、随喜されたすべての僧侶の満足と喜びに満ちた表情から、今、まさしく、曹洞禅が、日本とアメリカの国境、さらに、文化、言葉の違いをのり越えて敷衍しているのだということが、実感できたからである。そして、グローバルな21世紀に貢献する仏教・曹洞禅の普遍性は、そこに居合わせた全員によって、間違いなく体感されていたであろう。

この授戒会の戒弟のほとんどは、禅宗寺の日系人のメンバーや、坐禅会などに参加している現地人の方であったが、中にはごく僅かではあるが、日本から参加された方もみられた。期間中は、朝の8時の法要に始まり、午後5時まで、すべての行事に全員が真摯に臨んでいた。

そして、日本、海外から随喜された諸老師、御尊宿の方々は70名、北アメリカ各地から参集された国際布教師・伝道教師・伝道師は30名を数えた。

曹洞宗管長御代理として、戒師をお勤めになられた

板橋興宗禅師（前曹洞宗管長）は、説戒において、曹洞宗の教えの根源である「只管打坐のこころ」をわかりやすい言葉で懇々と説かれた。

- ・人間は、先のこと、未来のことを考えて不安になる。そして、不安から信仰を求める。信仰により、自分の考えにのみ頼っていた不安をなくすことができる。
- ・現代の文明（テレビ、ラジオ、電話）は寂しさをまぎらわすものである。しかし、本当の禅、仏法というものは、寂しいときは寂しいというように、手を加えない。身も心も自然にゆだねるのである。これこそが禅であり、生きる道である。
- ・言葉でいろいろ考えるから、問題になる。考えないために修行がある。
- ・考えをそれ以上発展させないということが、只管打坐の心なのである。

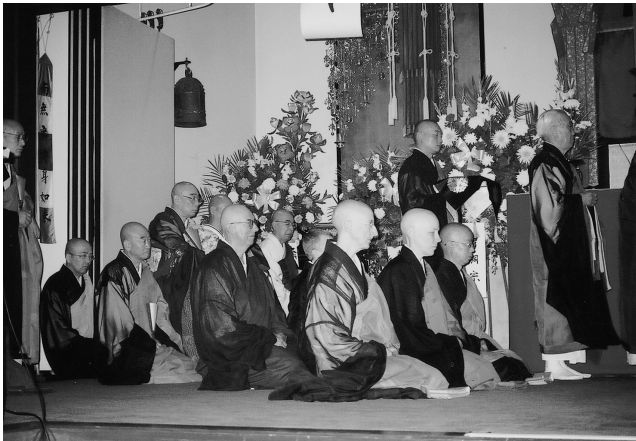
もちろん、英語での通訳をつけての説戒であるが、実際に会場で、戒弟の反応を見ていると、板橋禅師が話された言葉が、そのまま戒弟に受け入れられていると感じるところが多分にあった。それは、感激の余り、涙を流している戒弟の姿に如実に見られた。

今回の授戒会開催のねらいのひとつには、「信仰の中心としてのお寺」という大きなキーワードが存在する。

北アメリカ国際布教総監・秋葉玄吾老師は、授戒会の意義を次のように話された。

- ・北アメリカでは、10年前の70周年記念行事、5年前の75周年記念行事、そして、3年前にスタンフォード大学で開催された道元禅師シンポジウムと、大規模なイベントが続けられてきている。さらに、今現在、禅宗寺では坐禅会、仏教講座、太鼓グループ、敬老会、寺子屋などの様々な活動がさかんに行われている。これらは、お寺が、既存の檀信徒の心のよりどころとなるべく機能し、また、新たに信徒を獲得するためにも活動しているということを意味している。が、しかし、お寺は単なる社交場になってしまってはならない。い





つ何時でも、お寺は信仰の中心として存在していなければならない。今回の授戒会で、メンバーや信徒の皆様、信仰の中心としてのお寺を再認識し、「慈悲」を自覚してほしい。同時に、「行」として、北アメリカの多くの伝道教師・伝道師の方々にも体験してもらいたい。

この秋葉老師の願いが、そのまま言葉どうりに見事に成就したのが、今回の記念行事といえるのではないだろうか。

2003年に布教100周年を迎えたハワイと、80周年を迎えた北アメリカの布教には、20年の時間差が存在する。これは、世代に換算すれば、約1世代違うということになる。

この時間的な格差が一番顕著に表れているのが、言語である。ハワイの日系人の信徒、北アメリカの日系人の信徒双方と話をしてみると、その違いにはすぐに気づくことができる。概して、日本語をうまく話すことのできる信徒の数は北アメリカの方が、圧倒的に多い。逆に、ハワイでは、信徒との対話において、ほとんど日本語は通じない。

そして、布教ライン、つまり、布教の仕方においても、かなりの差異がみられる。布教において、何を一番重要視するか、ということを経験とハワイと北アメリカで比較してみると、ハワイは「信徒」となり、北アメリカは「法・行持」となるであろう。

北アメリカでは、すべての行事を日本と同様に綿密な差定で修行していく。一方、ハワイでは、行事の計画の段階において、どうしたら、信徒を参加させることができるかということを経験と最初を考える。これを一番よく表している具体的な例が、ハワイの各寺院で法要の最初に必ず行われるバンダナ・ティサラナ（帰依のお唱え）である。このお唱えを僧侶も、信徒も、全員で合唱するのである。

さらに、ハワイと北アメリカの国際布教師の威儀の違いは、その布教ラインの違いをそのまま具現化しているともいえる。すなわち、北アメリカの布教師が、日本と全く同じに着物を着て、足袋を履き、草履を履くのに対して、ハワイの布教師は、ワイシャツを着て、ネクタイを締めて、スラックスを履く。そして、その上に大衣をつけて、袈裟をかける。

もちろん、こうしたハワイと北アメリカの違いには、両地域の背景・バックグラウンドが大きく起因している

ことは言うまでもない。

ハワイには、9ヶ寺の日系寺院（日系人の檀信徒をメンバーにかかえ、メンバーに対する布教・教化を主とする寺院）と、合計約2000人も信徒が存在するが、認可された禅センターはひとつもない。一方、北アメリカにおいては、5ヶ寺の日系寺院はすべてカリフォルニア州に集中し、メンバーの合計数は約550人前後である。しかし、禅センター（堂頭を中心に毎日の坐禅修行を主な活動とする寺院）は、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコの大規模なところを中心として、日本曹洞宗に認可されているだけでも約30、認可されていないところも含めると100以上も北アメリカ各地に存在しているのである。

また、両地域における問題点をみても、違いが浮き彫りになってくる。ハワイでは、まず、檀信徒の数の減少や、仏教離れ、そして、寺院の後継者の問題が第一に考えられるが、北アメリカでは、もちろん、日系寺院も、その根底には、ハワイの日系寺院と同様の問題を抱えているものの、それ以上に、禅センターが活発に活動し、登録される僧侶が増えるにつれて、起こる様々な問題、その問題の多様化、対応の複雑化が深刻な問題となっているのである。

「信徒」を基盤におくハワイの布教と、「法・行持」に重きをおく北アメリカの布教において、今、述べたような違いや問題点は、数多く存在する。が、しかし、私たちは、どちらの布教においても、80年、100年の長きにわたり、曹洞宗の国際布教という名の下で、先達の国際布教師の方々が、曹洞禅をそれぞれの地域において根付かせるために、試行錯誤し、汗と涙にまみれ、それこそ血の滲むような努力をしてきたという事実を決して看過してはならないということを肝に銘ずる必要がある。

今、私たちがここで、どちらの布教が正しいのか、正しかったのかという議論をしても何も意味を成さないであろう。なぜなら、別の見方をすれば、まだ、曹洞宗の国際布教は、たった80年、100年しか経っていないのである。

私たち自身が、10年後、20年後に、この2003年度の北アメリカの80周年記念行事、そして、ハワイの100周年記念行事は、21世紀の曹洞宗の国際布教において、非常に意味のあるものであったと言えるように、さらなる努力を続けていかねばならないのである。



第5回ゆめ観音アジアフェスティバル報告

SZI事務局・ゆめ観音担当 亀野哲也（神奈川県貞昌院内）



JR東海道線に乗って大船駅付近から西の方角を眺めると、街を見守るように微笑む白衣観音像が目に入ります。今回第5回目を迎えるゆめ観音・アジアフェスティバル（主催・ゆめ観音実行委員会、後援・鎌倉市）は、この大船観音の境内において開催されました。日常、大船観音を訪れる拝観者は篤い観音信仰の方々であり、境内に掲げられた絵馬や灯籠、参拝ノートには、アジア各国の文字が目立つことも特色です。拝観者の約3割を占める在日アジア諸国の人々は、それぞれの悩み、思い、願い事を胸に観音様へと参拝を重ねているのです。日本で暮らすアジアの方々の心のよりどころとなっているといえます。

大船観音の歴史は約75年前、平和を願う地元有志が建設に着手したことにはじまります。第二次世界大戦のため途中荒れ果てた姿になってしまいましたが曹洞宗大本山總持寺の管轄となり、観音像も現在の姿に蘇りました。

そこで、観音信仰で結ばれたアジア各国ゆかりの僧侶をお招きし、それぞれの国の様式で平和の祈りをささげ、音楽や舞踊を催し、ひとときでも楽しい時間を過ごしていただく場を設けることが出来ないだろうかということで企画されたのが「ゆめ観音」でした。平和を願い建立された観音、またアジアの方々の信仰を集める観音のみもとでゆめ観音が開催されることはとても意義深いものであると感じています。

今年のゆめ観音は9月6日土曜日、正午から夜9時にかけて開催されました。当日はとても良い天気恵ま

れ、開式前から数多くの人々が会場に訪れました。午前中には、ちんどんで大船の街を練り歩き、開催を宣伝して回った効果も大きいようです。

開式、平和宣言はSZI副会長瀧澤和夫老師より読み上げられ、会場を埋め尽くした多くの方々から賛同の拍手をいただきました。

その後、アジア各国の民族舞踊、音楽、平和の祈りがささげられ、夕刻には大船観音寺住職・大本山總持寺監院伊東盛■老師導師による万灯供養法要が舞台上で営まれました。暮れなずむ境内、ライトアップされた白衣観音像の前で行われる蠟燭と篝火に幻想的に照らし出される法要により、ゆめ観音は最高潮を迎えました。

会場には、アジアエスニックフードや民芸品、NGOのテナントが並び、フードショップはどれも売り切れになる程の大盛況でした。また、インド政府観光局のブースや、神奈川県主催のカナガワビエンナーレの国際児童画展も開催され、アジア各国の民族相互の交流・理解に貢献できたのではないかと考えています。

SZIもブースを設け、海外に広がる禅の世界をアピールしました。

最終的に会場を訪れた人数は約2000人、入場料金ベースで1300人を超えました。幸いにも怪我人や大きな事故もなく、無事円成できましたことは、大本山總持寺監院老師、總持寺役寮大衆の皆様、大船観音寺の皆様、そしてSZI関係者の皆様、スタッフの皆様のご尽力の賜物であると感じます。

また、總持寺・大船観音寺とSZIが協力し合ってゆめ観音を運営していくスタイルは、今後とも是非継続していきたいものです。

入場料としていただいた39万円は、神奈川県国際交流協会民際基金へ19万円、Saveイラク文化財募金に10万円、神奈川新聞文化厚生事業団ユニセフ募金へ10万円の内訳で全て募金させていただいたことをご報告申し上げます。



これまでの経緯

1999年11月 第1回 ゆめ観音アジアまつり

大船観音寺監寺・松山典生師の発案により開催。
企画運営は大船観音により行われた。SZI側は当日
の手伝いとして6名派遣した。

2000年11月 第2回 ゆめ観音アジアまつり

ゆめ観音をSZI・大船観音寺と共催という形で行う。
入場者・約1000人。

2001年11月 第3回 ゆめ観音アジアまつり

大船観音寺との共催という形を継続。
地元商店会、JR大船駅、ルミネなどの協力を得て、
第2回をさらに充実させた内容で開催された。入場
者約2000人。

2002年11月 第4回 ゆめ観音アジアまつり

ゆめ観音実行委員会を組織し、主催「ゆめ観音実
行委員会」、後援・鎌倉市として開催。入場者約
600人（雨天）。

第5回ゆめ観音DATA

[舞台]

- ゆめ観音実行委員会（開会・平和のメッセージ）
- 早稲田大学 風街宣伝社（ちんどん）
- 茅ヶ崎の和太鼓会[湘]（和太鼓）
- フィリピンSAGIPチャリティーサークル（舞踊）
- カラータットヴァ（インド舞踊）
- 湘南・西湘支部朝鮮舞踊同好会（朝鮮舞踊）
- チョウタリ・バンド（ネパール音楽）
- 東京沖縄県人三線会（沖縄舞踊）
- 和太鼓十三（創作和太鼓）
- 万灯供養法要

[ブース]

- カナガワビエンナーレ絵画展示
- インド政府観光局（観光ガイド）
- アショカ（インド料理）
- ネパリ・バザーロ（喫茶コーナー）
- 横浜ベトナム人会（ベトナム屋台）
- We 2 1 ジャパン（リサイクルショップ）
- SOTO禅インターナショナル（パネル展示）



平和宣言

平和を願う心・・・・・・・・

それは、全世界どこの国であっても、どのような民族
であっても同じであるはずですが、けれども、人間は、そ
の長い歴史の中で、必ずどこかで、戦争と平和を繰り返
してきました。19世紀から20世紀に入ってから私達は機
械文明を手に入れ、生活が飛躍的に豊かになりました。
一方で人々は、戦いの中で大量に相手を殺す兵器も生
み出しました。新世紀を迎えても、私たちは、科学、技
術、コミュニケーションの分野で飛躍的な発展を遂げる
ことができたが、残念なことに、暴力と戦争という
悪習を終焉させることはできませんでした。

大船の丘から街を見下ろす、この白衣観音像は、1929
年、世界の恒久平和を祈願して建立されたものです。し
かし、悲しいことに、その願いも空しく、日本は第二次
世界大戦に突入してしまいます。戦争により、観音像も
痛々しい姿になってしまいました。

アジア各国へ与えた数々の過ちを繰り返してはいけな
い。敗戦を経て今度こそ、観音菩薩の慈悲によって平
和を祈願し、世界から戦争を無くすことを誓い、大船
観音は現在の姿に再建されました。

このように、大船の白衣観音像は、日本のみならず全
世界の平和を、また人々の平安を祈りながら、この地に
鎮座なされてから40年たちます。建立に携わった人々の
熱い想いは、その後も多くの人々に受け継がれ、観音の
境内には、「原爆の火」や「戦死者慰霊碑」等、平和
への祈りが込められたモニュメントが多く建立されまし
た。

平和は、政治的、経済的、軍事上の契約だけによっ
て保障されるものではありません。最終的には、人びと
の一致した、誠実な、ゆるぎない取り決めによって築か
れるものです。年齢、性別、社会的地位、宗教的帰属、
または文化的背景の違いを超えて、私たち一人ひとりが、
平和な世界を創ることを求められています。

平和は、私たちの行動、態度、日常の行為を通して
のみ達成できます。平和の文化はすべての人が分かち合
う、普遍的な文化であり、私たちに共通する人間性に
不可欠なものであることを認識し、私たちはそれを行動
に移していくことを誓います。

今回、第5回を迎える、ゆめ観音・アジアまつりのこ
の大船の地から、アジアに向けて、そして全世界に向け
て、平和のメッセージを発信いたします。

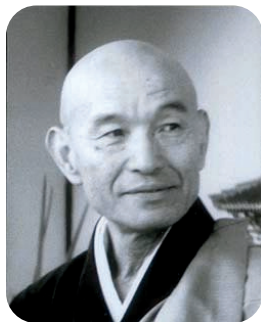
平成15年9月6日 ゆめ観音実行委員会

アメリカの仏教書

第5回／禪仏教篇⑤

前角博雄老師の本

アメリカ マサチューセッツ州 ヴァレー禅堂 堂頭 藤田 一 照



前角博雄老師

これまで4回の連載で、曹洞禅をアメリカ、とりわけ日系人以外の人びとにもたらすという困難な仕事に取り組んだ初期のパイオニアである鈴木俊隆老師（1959年渡米）、片桐大忍老師（1963年渡米）に関係する本をいくつか紹介してきました。このお二人の活動によっていわば「鈴木老師系」曹洞禅とでもいべきアメリカ曹洞

禅の主流のひとつが形成されました。今回はアメリカ曹洞禅のもう一つの主流といえる「前角老師系」曹洞禅を生み出した前角博雄老師の本を紹介することにします。

前角老師の略歴については本誌の第5号に簡潔な紹介がありますので、いまはそれを借りさせていただきます。

昭和6年、栃木県大田原市光真寺三十六世黒田白純大和尚次男として生まれる。駒澤大学卒業。曹洞宗大本山總持寺安居。原田祖岳老師門下安谷白雲老師並びに臨済宗禾山派定光老師門下苧坂光龍老師の室に入って大事を了畢。黒田白純老師に嗣法。桐ヶ谷寺三世となる。昭和31年ロサンゼルス禅宗寺駐在開教師として渡米。ロサンゼルス禅センター佛真寺、並びに陽光寺を開創。さらに黒田インスティテュートを設立し、学長に就任す。その他ニューヨークに禅真寺及び道真寺を開山。フランスに法玄寺を開山。オレゴンに地藏院を開山。その他、メキシコ、ポーランド、ドイツ、オランダ、イギリス、オーストラリア等、世界各地に禅道場を建立し、禅の高揚に努め現在に至る。多数の外国人の嗣法の弟子を育てる。平成6年、日米文化交流の功績を認められ、前角老師及び白梅会に対し、ニューヨーク州立大学よりハリス賞を授与される。平成7年5月15日、東京桐ヶ谷寺に於いて示寂。65歳。

ここで特筆すべきことは、鈴木老師や片桐老師が「只管打坐」を全面に押し出して指導したのに対し、前角老師は安谷老師と苧坂老師から学んだ公案を用いる修行法を只管打坐とともに弟子たちに課していることです。ですから「前角老師系」の禅センターでは只管打坐を行じている修行者の隣に「無字」の公案に取り組んでいる修行者が坐っていることが充分あり得るのです。また師と一対一で向かい合い公案に対する自分の見解を点検してもらう「独参」の時間が特別に設けられ重要な意味を与えられていることもその特徴です。わたしは両系統の禅センターで何度か坐らせていただきましたが、その空間に漂う雰囲気はあきらかに違っているという印象を持ちました。教義の解釈や修行法・指導法についてもかなり大きな見解の相違があるように思われました。それはどちらが良い悪いといった問題ではなくいわば

「文化」が違っているというべきなのでしょう。このようにアメリカでは同じ曹洞禅といっても、かなり様相を異にする二つの系統が存在していることになります。それを分裂・対立とみて問題視するか、あるいは豊かさ・多様性とみて肯定するか？これまでのところ両系統の曹洞禅は「住み分け」状態で共存してきました。しかしどちらの系統においても第三世代がリーダーシップをとり始めている現状を考えれば、近い将来において接近・遭遇・相互作用が起こるべきだとわたしは思っています。

さて、わたしが前角老師の名を始めて知ったのは、曹洞宗において得度をするまえ、居士として臨済禅を学んでいた時でした。それはもう20年あまり前のことです。秋月龍眠師の『公案一実践的禅入門』という本を読んでいましたら、そこに「越溪・禾山下室内公案体系」という付録があり、そこの前書きに禾山下の室内を伝える数少ない師家の一人として「前角博雄老師 米国加州 仏真寺 ロサンゼルス・ゼンセンター 前角老師は曹洞宗の僧籍を有し、三宝教団初代安谷白雲老師の法嗣であるが苧坂光龍老師に請益、重ねてその印可を受け、興禅窟の窟号を贈られている」という紹介があったのです。そのころのわたしはアメリカにも禅の「老師」（臨在宗で使われる意味での老師）がいるなどということとはまったく想像もしていませんでしたし、曹洞宗のお坊さんでありながら臨済宗でも印可を受けているということも大変珍しく思われましたから、その名前を記憶にとどめたのでした。のちに自分が曹洞宗で僧侶となりさらにはアメリカに渡ってその人物に直接お眼にかかることになるとは、そのときはまったく思いもしませんでした。

1987年に渡米して2年ほどが経過し禅堂での暮らしに慣れてきた頃、ニューヨーク州にあるZEN MOUNTAIN MONASTERYというところから、晋山式をおこなうからおいでくださいという招待状が届きました。他の禅堂を見ておくのもあとあとの勉強になるだろうと考え、当時一緒に修行生活を送っていた山下良道禅兄（現在はミャンマーで比丘生活を送っている）と一緒に、ボロ車を駆って出かけて行ったのです。そこで出会ったのが他ならぬ前角老師だったのです。老師はその禅院の指導者である大道・ローリさんの師匠にあたる方でした。大規模な晋山式でしたから大勢の人が集まり老師もなにかと忙しくされておられましたから、ゆっくりとお話する機会をもつことができず、そのときはご挨拶を交わした程度でした。ともかくそれがわたしと前角老師の初めての出会いでした。

その後も北米開教師（当時の名称、現在は国際布教師）の集まりで何度かお会いして四方山話をする機会がありましたが、じっくりと膝を交えて法についての教えを受けるような機縁はできませんでした。お会いするたびに「是非、ロスのセンターに足をお運びください。い

ろいろお話したいと思っていますので・・・」と暖かいお誘いを受けたのですが、なにぶん遠方のことでなかなか果たせないうちでございました。1995年3月にサンフランシスコのグリーンガルチ禅センターで「伝道教師研修所」が開催されたとき、わたしは特別講師として日本から来られた檜崎通元老師の通訳をおおせつかりました。前角老師はこのとき主任講師をつとめられ、わたしが滞在させてもらった建物の二階で寝泊りされておられました。ある日の夕方その日のプログラムがすべて終わって部屋に帰ろうとしていたとき、老師から部屋に来るようというお声がかかりました。わたしがなれない通訳の仕事で四苦八苦している労をねぎらう言葉からはじまり、約二時間ほどでしたが、初めてゆっくりと差し向かいでお話することができました。わたしがどういう生活をしているか、それについての老師からのアドバイスを、老師のこれまでの苦勞、公案修行について、只管打坐のこと、曹洞禅と臨済禅の双修の問題などをめぐってわたしも老師も率直な考えを出し合いました。老師もわたしも同じ頃に日本に行く予定でいましたから（老師は墓参や宗務庁での用事、わたしはティク・ナット・ハン師のツアーに同行することになっていました）、日本で再会してまたお話の機会をもつことを楽しみにしてお別れしたのです。二人ともまさかそれが最後の出会いになるとは思いもしませんでした。

ティク・ナット・ハン師のツアーが終わり、明日日本を立つという日、スタッフ一同が師のところにご挨拶にうかがった折に、師の口から「さきほど、前角老師が遷化された」という訃報を聞かされました。（どういう経路で師のもとにそんなにはやくニュースが届いたのかはわかりません）「まさか・・・」わたしは茫然自失のまま、滞在していた連れ合いの実家にもどりました。そこでアメリカから入った前角老師示寂のメッセージを受け取りました。密葬の時間と場所も知らされました。「ああ、やはりほんとうだったのだ。日本でお会いするはずだったのになんと突然な・・・」アメリカに帰る予定だった日の直前でしたが、桐ヶ谷寺での密葬に参列することができました。アメリカからかけつけた高弟の方々が悲しみのあまり滂沱の涙を流しておられる姿にはほんとうに胸が痛みました。あのグリーンガルチでの夜、「おかげさまでやっと後を託せる弟子が育ってきました。あの連中をここまでひっぱってくるのは大変でしたよ」としみじみ語っておられた老師の姿が脳裏によみがえりました。

老師との出会いの話がすっかり長くなってしまいました。ここで本題である老師の本について書き始めることにします。

老師の創設されたThe Zen Center of Los Angeles (ZCLA ロサンゼルス・禅センター) が最盛期を迎えていた70年代にはセンター内に出版部があり、前角老師と一番弟子である徹玄・グラスマン師が編集したZEN WRITINGS SERIESと題する禅の本が都合5冊出されました。

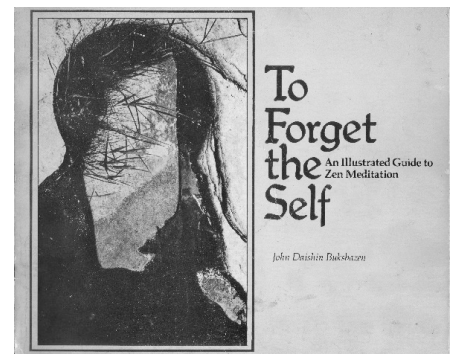
- ① On Zen Practice: Foundation of Practice
(『禅修行についてー修行の基礎』1976)
- ② On Zen Practice II: Body, Breath, and Mind
(『禅修行について その2ー身体・呼吸・心』1977)

- ③ To Forget the Self: An Illustrated Guide to Zen Meditation
(『自己をわすれるー坐禅への絵入りガイド』1978)
- ④ The Hazy Moon of Enlightenment: On Zen Practice III
(『さとの朧月ー禅修行について その3』1978)
- ⑤ The Way of Everyday Life
(『日常生活の道』1978)

あいにくいずれも今は絶版状態になっており、古書店か図書館でしか入手できません。（最近、弟子達の手によって少しずつ復刻されているようです。それについては後述）わたしのいるヴァレー禅堂の本棚には③と④がありました。③は前角老師の弟子である John Daishin Buksbazenによるもので、ブッダ・坐禅・共同体という三部構成のイラストつき坐禅解説書です（柔軟体操・坐蒲の作り方の解説・各地の禅センターのリストが付録として付いている）。前角老師ご自身の著書ではありませんが、なかには前角老師の言葉が随所に引用されていますのでそのいくつかをここに訳出してみます。

- ★ 釈尊が体得されたこと、それは全宇宙が一つであること、自分が全てのものと一つであることの直接的自覚である。これを自証することがブッダであるということだ。
- ★ 自己をまなぶとき、そこに調和を見出す。われわれはその調和を自分で作り出すのではない。その調和を獲得するとか手に入れるというのでもない。それはいつもそこにあるのだ。われわれはこの完全なる道のまっただなかにいる。修行とはただその道をさと、日々の生活の中でそれを具現していくことなのだ。
- ★ バランスを保つことなしに調和はありえない。四十人、五十人の人間がともに集い、各人が自らのからだところにバランスをもたらし努力をするときはじめて、集団の調和がたしかなものとなるのだ。
- ★ 摂心とは自らのところと宇宙の心とを直接させるという意味だ。
- ★ 修行とは自身の全体を挙げて関わっていくものでなければならない。どこまでも行為によって実証しなければならない。それは頭のなかだけのことでない。精神を集中させるだけでもない。からだと一体になったものでなければならない。

紙面の都合により、④については次回に触れることにします。[続く]



ハワイレポート

マウイ満徳寺での短期体験記

～2002年（平成14年）11月21日から2003年（平成15年）1月30日まで～

埼玉県秩父市 宗福寺副住職 井上 智 晴



私は駒澤大学仏教学部に在学中、我宗（曹洞宗）について様々な事を学びました。そして海外にも曹洞宗の寺院がある事を知りました。海外寺院の事について書籍、文面から得る事が出来ない檀家さんとの関係や、行事、寺院の存在に興味を持ち、機会があれば是非自分の目、耳

で体験してみたいという衝動に駆られました。

そんな時、大谷哲夫先生（現駒澤大学学長）の計らいで御弟子さん（大谷有為師）が国際布教師として赴任されている米国ハワイ州マウイ島パイア市にある満徳寺に勉強しに行くと良いと絶好のお言葉を頂き、今日、たつての願いが実現しています。

大学卒業後、大本山永平寺に1年間安居した後、両大本山への瑞世拝登をさせて頂き、平成14年11月に現在御世話になっている満徳寺へ渡米しました。

私がまず驚いたのは、檀家さん（こちらではメンバーと呼称する）が菩提寺を大変大切にしているということです。日本では、先祖の菩提寺だから代々その御寺に御世話になるという風習がありますがこちらでは少々違います。もちろん、日本のように、代々歴史を経て菩提寺に御世話になっているメンバーの方もいらっしゃいますが、ハワイでは御寺がメンバーを選ぶというよりもメンバーが御寺、住職を選ぶと言う風習なのです。ですから、御寺側からメンバーへの積極的な働きかけが、常に必要とされていると感じました。

週末になると、敷地内の整備や、本堂の清掃を行うメンバーの姿が目に入ってきます。先祖の御墓参りに毎週訪れる方もおります。家族総出で御墓を磨いたり、花を供えたり、子供達も見様見真似で水を掛けたり、掌を合わせたりし、家族の良いコミュニケーションの場にもなっています。

～ Memorial Service （御葬式・年回法要）～

こちらでの御葬式・年回法要は、Memorial Service（メモリアル・サービス）と呼ばれます。日本と同じように、葬儀所で行う場合と、また、御寺の本堂で行う場合がありますが、最近では、そのほとんどは葬儀所で行われています。私は、お寺の本堂で行われた御葬式に導

師（大谷師）の送迎、堂行、副堂、維那役をお手伝いさせて頂きました。

日本において、御葬式では明るい雰囲気など皆無というて良いでしょう。また、それが常識であり、そのように参列するのが当たり前のような風習になっています。しかし、ところ変われば云々とは良く言いますが、ここマウイの御葬式では、笑いすら起きます。今まで、そのような葬儀は行った事などなく、少々唾を飲み込まされた感じでした。

進行にあたってEulogy（賛辞）と呼ばれるものがあります。ここでは、喪主あるいは遺族の方が、故人の歴史をユニークに語ります。なるほど、このような賛辞も、故人にとっては素晴らしい感謝の言葉になるのだと実感しました。

しめやかに滞りなく故人を送り出すのも、また、微笑み温かく故人を送り出すこともひとつの式、「井の中の蛙、大海を知らず」と言う諺がありますが、マウイに来たからこそ知り得たことだと思います。

～ Sermon（御説教）～

そして、1番日本と異なり大変だと感じた事は「御説教」です。私にとっては、法を説くということは、まだ容易なことではありません。日本語でさえも、表現の仕方が難しく、自分の伝えようとする事を相手に100%伝えるのは難しいのです。

日本では、国教というものがありませんが、仏教のことは、多少なりとも生活に関わっていると感じます。それは、童謡に出ていたり、昔話に出てきたり、あるいは、おばあちゃんが、孫に話をする際に比喩的に使ったりして全く馴染みの無いものではないと思います。

しかし、アメリカにおいてはそのような事はないのです。よって、伝えることが難しいのは当たり前です。日本語の微妙な表現の仕方を、英語を使って、しかも人に説くのですから。近年、道元禅師の思想と言うものが注目されています、それに伴って少なからず曹洞宗と言う禅宗の一派に興味を持たれる外国の方々もおります。我宗の禅は、只管打坐です。悟りを得るために禅を組むのでは無く、今自分がいるその場所が禅でありそれこそが悟りであるとして、ただ坐る事を重んじて来ました。しかし、その考え方はアメリカ人には受け入れ難いもののようなのでなかなか理解して頂けるように説明するのが難しいです。もっともっと勉強に励まなければいけないと再認識されました。

～ 日本文化（太鼓・餅つき）～

こちらの方々は、日本の文化にとっても興味があり熱心に取り組む姿が見られます。最近、日本では昔からの文化や伝統が少子化、過疎化などによりやむを得ず消滅してしまう傾向が見られます。それは、何物にも変え難い財産だと私は考えます。

今日のハワイの日系社会において日本語を話される方は、とても少なくなっているようです。日系の2世の方（だいたい年齢で80歳前後の方）は、少しは話されますが、それでも、御寺の会議などではすべて英語、メンバーの方同士が普段の会話で話すのも英語です。そして、もちろん3世、4世の方々はすべて英語になります。

しかしながら、日本の文化に興味を持って取り組み、参加しているのはその若い世代の方々なのです。日本の文化で1番、多くの人が知っているのが盆踊りです。浴衣を上手にまとして、腰には団扇を挿して日本人さながらです。その際に、御囃子を披露するのですが、毎週日曜日にKeiki（ハワイ語で子供）Taiko Classが御寺のホールで開かれます。私も、練習に参加させて頂いているのですが、初めて練習風景を見学した時とても、その完成度に驚かされました。

上手に大太鼓、小太鼓を操り、見事な囃子を演じ祭り好きな私の血も騒ぐほどでした。何故、祭り好きかと言いますと、私の故郷は秩父夜祭で有名な埼玉県秩父市なのです。そこで、御囃子の先生をされている大谷師の奥様をお願いして秩父屋台囃子を演奏させて頂くことになりました。そして奥様の計らいで今では、その屋台囃子をみんなで練習しています。少しでも、日本の文化を伝えることが出来て嬉しく思っています。

年の暮れに近づくとも体力自慢の男衆が集まって餅つきが行われます。私自身、餅つきは幼い頃にやったきりで久しぶりに日本の文化を異国の地、マウイで体験することになり、それは石の臼に木の杵、額には手拭となんとも粋なものでした。と、同時に発祥の地である日本に住むものの1人としてもっとこういう昔ながらのものを日本でも大切にしていかなければならないと思い知らされました。

国際布教師になる為には、英語力もちろん必要になって来ますがそれ以外に、日本の文化、伝統も現地の人々に伝える事ができるよう+αの努力も惜しまずにやらなくてはいけないのだと発心しました。

～ 大晦日 ～

日本で大晦日と言うと、除夜の鐘を想像する人も多いことでしょう。さすがに、ハワイではそのような行事は行われなだろうと思っている方もいると思います。私も、その一人でした。しかし大晦日当日爆竹が鳴り響く中、満徳寺鐘楼堂の大梵鐘が打ち鳴らされ始め、私たちは、本堂にて元旦法要の準備をして、メンバーの方々



も徐々に参列のため集まって来ました。

23時50分、大梵鐘が108回目を告げたとき本堂で殿鐘が響き、法要が始まりました。私も、法事と同じ様にお手伝いをさせて頂き、大谷師の新年の挨拶を聞きながら2003年を迎える事になり、将来自分も同じように英語で御説教、悠長な挨拶が出来るようにこれからも、もっと精進しなければならぬと改めて発心した次第です。

～ 御札焼き ～

私にとってマウイでの最後のサービスになったのが御札焼きです。魂抜きした仏壇や、塔婆、御札、御守りなどをメンバーの方々が当日御寺に持ち寄って、初めて本堂で供養の法要を行いました。天候が思わしくなく少々心配していましたが、法要が終わる頃には雨も上がり屋外での御札焼きが無事出来ました。

～ 振り返って ～

御札焼きのサービスを以って、3カ月と言う体験を終えました。まず、大谷師夫妻、温かいメンバーの皆様、そして一緒に掃除をしたり食事を共にした婦人会の方々、満徳寺と関り深い植岡家の方々に心から御礼をしたいと思います。本当に御世話になりました。帰国最後の日曜日には、思ってもいない贈り物まで頂きました。それは、送別会を開いて頂いた事です。婦人会の方々の一言で40人もの皆様が忙しい中、盛大にして頂き本当に嬉しかったです。

今回の御礼は、先の話になってしまうかも知れませんが私自身が国際布教師となり、ここマウイ満徳寺に赴任し立派な話の1つでもすることが何よりの御返しに成りえるだろうと思います。海外寺院での体験を生かし、日本に帰国しても今まで以上の努力、そして、御檀家さんとのコミュニケーションを大切にして日々是精進して行きたいです。

有難う御座いました。

2003年（平成15年）1月29日 記

アウトハイゼン「禅川寺 (ZEN RIVER)」晋山式

静岡県富士市 慶昌院住職 磯田 浩一



2003年9月6日、日本から飛行機で11時間かかるヨーロッパはオランダの地で晋山式が執り行われました。寺名は「禅川寺 (ZEN RIVER)」、新命和尚は、Anton (アントン) 天慶 Coppens (コペン) 老師です。彼は1949年生まれのオランダ人で、1976年に禅の勉強を始め、故前角博雄老師、マーゼル玄法老師に法を仰ぎ、Zen Center of Los Angeles (ロサンゼルス禅センター)、Salt Lake City (ソルトレイクシティ) のKanzeon Zen Center (法真寺) 等で修行をかさねた後、オランダへ帰国。アムステルダムにしばし滞在の後、現在オランダ北部フローニンゲンのさらに北の方、対岸にはドイツを臨む「アウトハイゼン」という小さな町で、もとホテルであった建物を購入し、それまでアメリカ、ヨーロッパと行脚してきた活動を禅道場という形で腰を落ち着け、本格的に活動を始めました。師の伴侶であるイギリス人のTamara (タマラ) 妙法Gabrysh (ガブリッシュ) 禅尼と、数人のスタッフで運営をされています。ここ数年ヨーロッパは「禅」ブームで、たとえばオランダの田舎町の普通のスーパーであっても、その園芸用品の飾り用として仏像が売られていたり、空港の何気ない携帯電話のポスターがサラリーマンの坐禅姿であったりと、それまで「チャイニーズレストラン」しか東洋を目にすることができなかったような場所でも、「禅」が目立つようになってきました。「にわか禅トレーニングセンター」らしきものが幾つもある中で、彼の主宰するZEN RIVERはおそらくオランダで唯一本格的な曹洞形式の法式を受け継い

だ寺院だと思われます。信者も多く、またイギリス、ドイツ等近国にて摂心を行うたびにその数を増やしています。天慶老師の修行時代には、色々な場所で摂心を行った事もあるようで、森の中では木の根元に坐し、砂漠ではコヨーテ、さそり等に気を使いながら、対面し円陣を組みながらのものであったり、また「今日は満月で、きれいな月夜だから略布薩をやりましょう」などその法式は状況に応じて変えられる柔軟性をもったものです。

今回の晋山式は 西堂・東京桐ヶ谷寺黒田純夫老師のご準備の下、私とやはり日本から準備にきていた福井県松雲院、小野義彦老師の二人でほぼ1週間以上前から現場の支度にかかりました。決して金銭的に余裕の持てる式ではないので、できる限り手作り、一番驚いたのは大揃に使用する大太鼓をワインの樽と牛の皮を購入して自分たちで作ってしまったことです。音色はもちろん「雷が震うが如く」の素晴らしい物です。その他にも木製で作れるものはメンバーの中にいる数人の「大工職人」ができる限り作ったり、布製のものはやはり自分たちのスタッフ同士で独立した部門を作ってすべて、あつらえていたりしています。嗣法をするときの血脈はもちろんのことお袈裟、直■、絡子も自分で作るのが必修になっています。晋山式自体は、できる限り曹洞宗の法式に近い形で執り行うことにしたため、小野老師と毎日慣らしを重ね、式に臨みました。式当日、小雨の降る中、安下処諷経から山門到着。山門法語から大揃上殿、そして三法語を如法に勤修した晋山式。晋山





開堂では空座問訊、五侍者問訊、香語もすべて、如法に執り行われました。特に問答は、問者5人が搭袈裟で行った後、道場内にいる参列者が挙手をしてそれぞれが聞きたいことを問いかけるという形になりました。20人くらいの参列者からの問答を終えてからは、提綱から始まり白槌師のお言葉を日本語と英語で頂き、無事に式はすべて成就されました。その後には、ヨーロッパ中から集まった信者、僧侶、150人以上を囲んだガーデンパーティが中庭で行われ、お祝いの言葉、お礼の言葉、記念撮影と進み後半には、やはり信者の一人であるプロピアニストによる生演奏をBGMに、肉を使わない「精進バーベキュー」で参列者をもてなしての充実した一日が締めくくられました。

オランダは九州よりも少し狭い国で、山どころか丘さえもまったくない平坦な国です。麦を挽いていた風車は今や「風力発電」に変わり、金よりも価値のあったチューリップの球根の取引も現代ではユーロに統合され、名物となった細長い建物の町並みもアムステルダムでは土台の侵食で、その存続が危ぶ

まれてきています。しかし時代の流れとともにその概観は形を変えても、古くから日本とつながりがあったこの国の人たちの気質は、北半球の日本の裏側でありながら、私たち日本人にとっても近いところがあり、今回の曹洞式の晋山式では参加したみなが同様の感動を得られる尊いものになりました。国民の平均身長が世界一高い、母国語を持ちながら英語の普及率が一番高いこの国に行くたびに、その見た目とのギャップを超えた身近な何かを感じさせるものを得てきます。ZEN RIVERは去年から、本格的な「寺院」を構えて動き出したばかりの寺ですが、ヨーロッパ、アメリカとその寺院同士、信者同士のネットワークの豊かさにますます活動を盛んにしています。天慶老師の「Dharma Talk（法話）」では、生徒たちが師を円座に囲み熱心に聞き入る姿を見られます。どこかの絵本で見た、釈尊が森の中で人や動物を相手に法を説く姿を思わせるような光景でした。ただ「ZEN」を勉強したいだけにそこへ集まるだけでは無く、師の人柄に引き寄せられるように、ヨーロッパの各地から、オランダの田舎町に人が流れ込んできています。 合掌



皆様のホームページ運営中!

SZIホームページでは、活動報告の他、皆様との交流の場を設けています。

SZI.BBS（掲示板）へのご意見・ご質問をスタッフ一同お待ち申し上げます。

<http://www.soto-zen.net/>

SZI10周年記念

SOTO禅インターナショナルの10年

SZI副会長 福島伸悦（埼玉県長光寺）

創立10周年に当たって、設立当時を振り返り、この10年間の活動を紹介いたします。

■設立に当たって

平成5年2月8日（月）午後2時より、東京グランドホテルにおいて50名ほどの参加者を得て、「SOTO禅インターナショナル」が発足した。これまで、関係者のみの関心事に終わってしまう海外開教を宗門全体の問題として取り組むような啓蒙活動ができればということで平成3年、準備委員会が設立され、会員登録が100名になり、設立発会式が行われた。当時の宗務総長大竹明彦老師をはじめ教化部長、内局の部長諸老師、大本山永平寺副監院山田康夫老師、大本山總持寺後堂（元ハワイ総監）大山興隆老師、駒澤大学総長櫻井秀雄老師方のご臨席を賜り、厳粛に発会式が執り行われた。皆様からのSZIに対する期待は大きいものであった。役員は、会長松永然道、副会長大山陽堂・藤川享胤、事務局長福島伸悦、事務局員大場満洋・堀部明宏、会計西澤応人、監事田中哲彦・長田敬道の面々。

■設立の意味するもの

世界情勢は大きな変革の中で目まぐるしく動いており、様々な視点から曹洞宗の海外開教も検討しなければならない。これまで、宗門は、開教師任せの布教に頼ってきたこと、又、各開教区でそれぞれに事情が違っていることなど原因が上げられるが、海外開教に対する方向性、ヴィジョンを積極的に、また明確に打ち出してこなかった。だからどうしても対症療法的な処置をするのが精一杯だったのが実状である。日系寺院も禅センターも様々な問題を抱え、新たな方向性を探っているところである。そんな中で、宗門として国際化に対応した施策を検討せざるを得なくなったのである。曹洞宗が教化集団としての責務を遂行するためには、国内布教、海外布教という枠組みにとらわれずにグローバルな布教展開を考えなくてはならないのである。

SOTO禅インターナショナルの設立の意味するものは、国内で海外開教に対して理解をしていただくような世論形成と開教師への経済的な支援と精神的なサポートにある。そして、宗門国際関係機関、並びに兩大本山とよい関係を維持しながら、民間レベルでフットワークよく、宗務庁でできないような活動が求められたのである。

活動の柱は次の通りである。

- 1) 海外で布教従事している開教師への支援
- 2) 海外布教や宗門関係の国際問題の情報交換
- 3) 国際化社会に対応する曹洞禅のあり方、また、布教のあり方を考える。
- 4) 機関誌の発行

■これまでの主な活動

（1）会報の発行 創刊号から24号まで

（2）開教師支援基金の創設

（3）シンポジウム開催

- 1) 「今問われている平和と曹洞宗の国際化」 1994年
基調講演
石附周行師（宗務庁伝道部長）
コーディネーター
田上太秀師（駒澤大学教授）
パネリスト
奈良康明師（駒澤大学教授）
松永然道師（SZI会長・SVA会長）
中川正寿師（ドイツ直心庵主任講師）
井桁 碧師（筑波女子大学）
- 2) 「ハワイ開教100年 現状と未来」 2003年
コーディネーター
飯島尚之師（SZI事務局長）
パネリスト
今井真行師（日蓮宗宗務院伝道部国際課長）
設楽 実師（真如苑総合企画広報課）
岡本信之師（浄土真宗本願寺派大恩寺住職）
山本宜亮師（立正佼成会松戸教会長）
倉岡弘叔師（高野山真言宗教学部次長）
吉田宏得師（曹洞宗ハワイ国際布教師）

（4）講演会開催

- 1) ティクナットハン東京講演会 1995年
- 2) 「情報化時代における仏教の新たな可能性」
武田道生師（浄土宗総合研究所） 1997年
- 3) 「禅修行を通して得たもの～両鏡相照」 1998年
ブライアンバークガフニ師

(長崎総合科学大学教授)

- 4) 「宗教を通じた異文化理解」 1999年
此経啓助氏 (日本大学教授・宗教考現学所長)
- 5) 「仏教の新たな可能性と異文化理解」 2000年
足羽與志子氏 (一橋大学教授)
- 6) 「宗教者、その国際性とその必要性」 2001年
瀧田光久師 (東林寺住職)
- 7) 「慕古の慶快に学ぶ」 2002年
植崎通元師 (瑞応寺堂頭)

(5) ワークショップ

- 1) 大本山總持寺ワークショップ
 - * 青木保 国立政策大学大学院教授講演会
「異文化理解」 1999年
 - * 杉浦千畝夫人 講演会
「六千人の命のビザ」 2001年
- 2) 大本山永平寺ワークショップ
 - * 藤田一照国際布教師 講演会
「アメリカで生きる曹洞禅」 2000年
- 3) 「ハワイ・北米・南米開教総監を囲んで」
進行 大山陽堂師 (SZI副会長) 1995年
発表者
松浦玉英師 (ハワイ開教総監)
山下顕光師 (北米開教総監)
森山大行師 (南米開教総監)
- 4) 「文化変容の中で生きるお寺」 1996年
司会 篠田一法師 (長松院住職)
パネリスト
大森篤史師
(全曹青パソコン通信研究部・東栄寺徒弟)
亀野哲也師 (貞昌院副住職)
西山直彦師 (善徳寺徒弟)
岡野定丸師
- 5) 「海外開教と開教師支援について」 1997年
進行 福島伸悦 (SZI事務局長)
パネリスト
細川正善師 (天徳寺住職)
黒田武士師 (善光寺住職)
山本健善師 (宗務庁国際課課長)
- 6) 仏教東漸「異文化圏で育つ仏法」 1998年
基調講演「北米巡回布教を通して」
青山俊董師 (愛知専門尼僧堂堂頭)
パネリスト
法岳光徳師 (花園大学禅文化研究所研究員)
ベナー・ジュ・大円師
(ペンシルベニア・マウントエクィティ禅堂)
峯岸正典師 (長楽寺住職)
- 7) 「サンフランシスコ日米宗教連盟との交流会」
進行 藤川享胤師 (SZI副会長) 1998年

パネリスト

- 佐々木千祥師 (サンフランシスコ仏教会)
中曽根ロン師
(カリフォルニアパシフィックスクール宗教学科)
松永然道師 (SZI会長)

(6) 人材派遣事業

- * サンフランシスコ桑港寺60周年記念法要
- * ハワイ・北米檀信徒大会
- * ハワイ満徳寺90周年記念法要
- * 北米開教75周年・禅宗寺創立75周年法要
- * ハワイ開教100年記念祝賀行事
- * 聖護寺国際安居通訳
- * ワンボール・ネットワーク主催
「地球に感謝する集い」
- * 第10回・第11回・第12回
「世界宗教者会議平和の集い」
- * ドイツ大悲山普門寺落慶法要
- * 中国「道元禅師の足跡を尋ねて」
- * 北米総監部・禅宗寺80周年法要
- * 道元禅師生誕800年記念
「道元シンポジウム in スタンフォード」
- * 青山俊董師北米巡回布教
- * 道元禅師750回大遠忌各文化事業
「アジア子ども文化祭」「アジア仏教徒フォーラム」
「国際デー」「ゲーリー・スナイダー禅を詩う」
- * 永平寺主催夏期大学「禅といま」

(7) 協働事業

- * 「アメリカにおける女性の禅指導者を支援する会」
基金募集活動への支援
- * 北米禅宗寺障害者施設建設の募金活動への支援
- * ハワイ開教100年記念募金活動
国際布教支援とクアキニ病院への寄付
- * 第1回から第5回まで
「ゆめ観音アジア祭りin大船」支援
- * スタディツアーの実施
北米禅センター・ハワイ各地

(8) その他

- * 教化学大会への研究発表
- * 世界を結ぶフォーラム小冊子発刊
- * SZIホームページの開設

※肩書きは当時のもの

聖護寺国際安居レポート

SZI事務局・元ハワイ国際布教師

大谷有為（東京都長泰寺内）

熊本県菊池市班蛇口の聖護寺（住職・栢崎通元老師／大智禅師ご開山）では、今年度も恒例の国際安居が修行されました。今年で11回目を数える国際安居に、今回はSZIから、特別講師（通訳）として参加しました。

8年前にも、この国際安居には参加させて頂いたことがあるのですが、今年も、その時と全く変わらぬ厳しい辨道修行が、外国人修行僧、瑞応寺からの修行僧、講師・役寮陣により、行じられておりました。

今回参加した外国人修行僧は、アルゼンチン1名、スペイン1名、アメリカ2名、ウルグアイ2名、の計6名、5月に始まり、7月20日までの約3ヶ月あまりの期間でした。

今回の国際安居で選ばれたテキストは、「宝慶記」でした。私は、以前に全曹青の会長を務められていたこともある、講師の寿松木宏毅老師（秋田県永泉寺副住職）とともに、7月11日に上山し、解制の日までの合計5回の法益を担当させていただきました。

この法益の中で、寿松木老師は、抽象的な表現をことあるごとに自らの体験に置き換えて話をされました。外国人修行僧に感想を求めても、大変わかりやすかったとの意見が多く聞けました。そして、中でも僧堂の生活や、坐禅、経行に関するところでは、活発な質疑応答がなされました。

国際安居の最後の期間にあたる7月中旬には、お盆、托鉢という大きな行事があります。また、テレビ局の取材も入るなど、連日かなり忙しいスケジュールに追われることになりました。外国人修行僧も、安居が始まって2ヶ月経ち、叢林の生活にはだいぶ慣れてきているものの、初めての棚経などには、やはり、かなり戸惑って



いる様子が伺えました。しかし、たった10人ほどの人数ではありましたが、修行僧全員が、協力し、助け合い、まさしく大衆一如の辨道を成し遂げ、晴れやかな笑顔で解制の日を迎えることができました。

今回の国際安居でも、数多くの問題が存在しました。外国人の修行僧と、日本人の修行僧との間の言語の違いによるコミュニケーションのしづらさは、ストレスとなって安居が始まる前の準備の段階から双方を随分苦しめたようです。さらに、文化の違いから生ずる各修行僧間での摩擦も、少なからずあったようです。しかし、その摩擦や問題を乗り越えることができたのは、ここが聖護寺だったからだ、と、1人の外国人修行僧が言いました。私は、この一言に、この聖護寺で行われている国際安居のすべてが凝縮されているのだということを感じざるを得ませんでした。この聖護寺に集まってくる外国人修行僧全員の心の中には、ここで修行をして、何らかの資格を得たいとかいうような気持ちは一切なく、まさに無所得の境を行じていたのです。ただ、ひたすらに、伝統的な曹洞禅に基づく坐禅をし、作務することに身をゆだねる、只管打坐の心のみ、極めて純粋に古を慕う気持ちのみ、なのです。

8年前に聖護寺にきたときにも、あまりにも純粋に修行に取り組む外国人修行僧の姿に感激したのですが、今年の国際安居も、私にとっては、外国人修行僧のもつ純粋な心に再び感動させられ、そして、そのような心をいつの時代でも呼び起こし、世界に敷衍し続ける曹洞禅のすさまじさを、再び実感させられるものとなりました。



SZI通信

夏期大学講座「禅といま」随喜報告

SZI事務局 太田 賢孝（東京都大龍寺内）

夏休みもそろそろ終わる2003年8月27・28日、第4回夏期大学講座「禅といま」（主催：大本山永平寺、後援：大本山總持寺・曹洞宗宗務庁・朝日新聞社、会場・協力：東京グランドホテル）が開催されました。SZIでは今年も人材派遣事業の一環として人員2名を派遣し、私は昨年に引き続きSZIスタッフとして随喜させて頂きました。

この夏期大学講座は、そもそも道元禅師750回大遠忌の文化事業として昨年まで盛会裡に回を重ねてきた事業でありました。その為、昨秋の大遠忌以降、講座の開催が危ぶまれておりましたが、受講者からの強い要望と、この要望を受け止めた永平寺と有志の熱意によって、継続的な事業となったのだそうです。

そんな事情は全く関知せず、今年も350人まで収容できる会場には溢れるほどの受講者が集いました。初日に青山俊董老師（愛知専門尼僧堂堂頭）「すずやかに生きる」・上田紀行先生（東京工業大学助教授）「現代社会と癒し」、2日目に濱田泰三先生（早稲田大学名誉教授）「随聞記と現代」・小倉玄照老師（成興寺住職）「杓底の一残水」という先生とその演題でありましたが、熱気のこもった会場にはしばしば笑い・涙・頷きが

起こり、会場係の私も耳を傾けることができ、あっという間に時は経ちました。講義の後、希望者のみ5階の研修道場にて坐禅となりましたが、こちらの道場も満杯の人が打ち寄せました。そして坐禅中には警策を求めて合掌する人が多数。しっかりと警策を差し上げていると更に警策を求める人が…。それまでの講義とはガラッと変わった張りつめた静けさの中、老若男女が一堂に坐禅に取り組みました。

この2日間の随喜を通して、人々の熱意によってこの講座は続くのだと一時は安堵しました。けれども、自分も努力を続けなくてはこの期待に応えられないなと思い、気合いを込めました。



寄付者・会費納入者名簿

補助金ありがとうございました。

大本山永平寺様
大本山總持寺様

◆SZI会費納入者

新規会員並びに会員ご継続

ありがとうございました。

（敬称略・順不同）

2003年5月10日～2003年11月10日まで

赤間直道	仙台市	龍角寺
浅井宣亮	大府市	地藏寺
飯島尚之	中野区	宗清寺
一適隆章	清瀬市	長源寺
鶴飼宏史	一宮市	禅林寺
宇田照彦	八王子	東照寺
江川辰三	瀬戸市	宝泉寺
大谷俊定	京都府	苗香寺
小笠原隆元	松本市	広沢寺
小原智司	豊橋市	西光寺
金田諦典	栗原郡	通大寺
楠俊道	耶麻郡	長照寺
黒川浩治	板橋区	

黒田純夫	品川区	桐ヶ谷寺
小池彰道	長野県	関昌寺
小泉悟道	川口市	円通寺
柴田隆全	名古屋市	神蔵寺
菅原研洲	世田谷区	
鈴木包一	焼津市	林叟院
戸田規子	安城市	慈光院内
中村見自	倉吉市	大岳院
蓮池泰乗	鶴岡市	宗伝寺
福泉寺	横浜市	
松永然道	静岡市	宗徳院
水町宗典	佐世保市	青眼寺
皆川広義	栃木県	常真寺
山口義博	青森県	保福寺
山本健善	世田谷区	
徳城寺	富山県	
数下敏也	京都市	松本屋
常円寺	伊那市	
牛田英史	仙台市	
酒井正智	栗原郡	耕田寺
平野克史	島田市	瑞雲寺

S Z I 動 静 報 告

2003年5月10日

～2003年11月30日まで

5月24日	役員会・横浜
6月3日	東京都宗務所 青少年教化委員 ハワイ研修事前勉強会
7月25日	事務局会
8月7日	ハワイ開教100年打ち合わせ・東京
8月25日	東京都宗務所 青少年教化委員 ハワイ研修事前勉強会
8月27・28日	夏期大学随喜・東京グランドホテル
9月6日	ゆめ観音 I N 大船
9月4～9日	東京都宗務所 青少年教化委員 ハワイ研修同行講師1名派遣
10月5日	東京宗務所 青少年教化委員 ハワイ研修反省会
10月8日	「ハワイ開教100年」連絡会議 品川プリンスホテル
10月14～21日	L A 禅宗寺80周年へ2名派遣
10月21～30日	S Z I ハワイ開教100年 ハワイ事業支援
10月23～28日	S Z I 主催ハワイ開教100年ツアー
10月27日	ハワイ・クアキニ病院表敬訪問
11月10日	編集会議・東京
11月27日	編集会議・東京

常時インターネットで事務局会等の連絡
広報活動をしております。

ハワイ開教100年記念募金報告

■募金趣旨

ハワイ開教100年にあたり、SZIでは皆様にハワイの曹洞宗寺院やハワイ日系社会の現状をご理解いただき、「ハワイ開教100年 記念募金」のお願いをいたしました。

現在、ハワイには9カ寺の日系寺院と、約2000人の信徒が存在します。これらの寺院は、日本から移民された方々の寄付や奉仕によって手作りで建てられ、精神的な依り所と社交場として支えられてきました。ハワイ寺院の歴史はそのまま日系移民の方々の労苦と努力の歴史でもあります。100年という区切りの年に、これまで労苦を重ねてきた先人の方々、そして、現在、ハワイ寺院を支えている国際布教師や信徒の方々に敬意を表し、また、ハワイ開教100年記念祝賀行事の成功を祈念して、記念募金を企画いたしました。

さらに、ハワイ日系社会へのお礼と地域還元を考え、曹洞宗ハワイ別院を通して、日本人移民が創立したアメリカ国内に残る最後の日系医療施設である「クアキニ病院」への寄付も募金の活用先の一つに加えさせていただきます。

■記念募金報告

ハワイ開教100年記念募金の収支決算は以下の通りです。ご支援ご協力ありがとうございました。

入金総額

記念募金合計（187件、278口）	2,780,000円
-------------------	------------

出金項目

国際布教師の方々へ改良衣12着を贈呈	325,290円
--------------------	----------

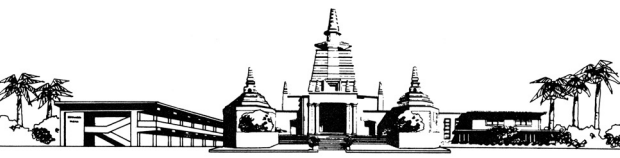
ハワイ開教100年諸行事への資金的支援	1,330,710円
---------------------	------------

（勸募経費を含む）

クアキニ病院への寄付	1,124,000円
------------	------------

皆様からご寄付いただいた寄付金は、SZI役員によりハワイ国際布教総監町田時保老師、クアキニ病院代表国崎ケニス氏へ手渡されました。2003年10月23日、SZI参拝団と共にハワイ別院へ拝登し、法要を行った後、福島伸悦副会長より町田時保老師へ記念品の贈呈が行われました。また同月26日、ハワイ開教100年記念祝賀法要後開催された昼餐会（ハワイ・シェラトン・ワイキキ・ホテル）にて、1300名以上の出席者が見守る中、藤川享胤会長より町田時保老師、国崎ケニス氏へ寄付金の贈呈が行われました。クアキニ病院へは27日、改めて藤川会長、福島副会長、飯島尚之事務局長が表敬訪問をいたしました。

記念募金では、皆様のご理解とご協力の下、予想を上回る金額が集まりました。ハワイの各寺院は決して経済的に裕福ではなく、国際布教師の努力と信徒の奉仕によって成り立っています。このハワイ開教100年を期に、より一層、現状をご理解いただき、引き続きのご支援ご協力がいただければ幸いに存じます。



SOTO MISSION OF HAWAII 1708 Nuuanu Avenue Honolulu, Hawaii 96817 Telephone: 537-9409

ハワイ開教百年記念行事をご支持下さった
関係者の皆様へ

拝啓 日本は今秋賑わと存じますが如何にお過ごしでしょうか。
今般はハワイ開教百年の記念行事修行に当たり、日本全国の宗門関係者の皆様方より絶大
な御支持を賜わり厚くお礼申し上げます。

お陰様で、去る10月25、26日の両日に亘り、遠路ご来賓を頂いた、曹洞宗管長お代
理、大本山総持寺斎藤信義副貫首ご導師の下、シェラトンワイキキホテルの大ホールを埋め
尽くす1350人の現地と日本からの出席者により、記念行事は盛大、厳粛に執行されま
した。

今回の記念行事企画執行にあたり、現地及び宗門の関係者のご協力は勿論ですが、特に、
日本のSOTO禅インターナショナルを介しての日本全国の皆様の御支持が、祝賀行事成功の
鍵となりました。ご後援を賜わった皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。

ハワイ曹洞宗は、新しい決意と団結力を持って、現地社会へ貢献できる宗教団体となるべ
く努力を重ねて参ります。今後とも御支持、ご鞭撻を賜りたいと存じます。

記念行事無事円成のご報告と共に一言お礼に及びました。有難うございました。

2003年10月30日

ハワイ国際布教総監 町田時保
ハワイ開教百年記念行事実行委員会




ハワイ開教100年記念寄付・改良衣の贈呈

SOTO禅インターナショナルでは、開教支援のため、また
またハワイ日系人のために募金を行いました。約270万円
の募金が集まり、その贈呈式が行われました。



クアキニ病院へ表敬訪問

クアキニ病院は、もともと1900年、チャイナタウンの
大火事で被災した日本人移民達を救うために、日系人
により作られた38床の小さな施設（日本慈善病院）で
した。

その後次第に大きくなり、1917年には、現在のクアキ
ニ通りに移転し、クアキニ・メディカル・センターとな
ります。

現在このセンターでは人種、性別、年齢、宗教、支
払い能力の有無を問わず、市民に広く、高品質で総合
的な医療を提供しています。（規模は250床、病院認定
協会より急性期医療病院としての認定を受けています）
クアキニ病院は、日本人移民がアメリカに設立した病院
の中で唯一現存するものなのです。

クアキニ病院へ\$ 10,000贈呈



Kuakini Health System
A Health Care Organization

October 27, 2003

Reverend Kyoin Fujikawa
Soto Zen International
1-27-6 Kamitakada Nakano
Tokyo 164-0002, Japan

Dear Reverend Fujikawa:

On behalf of the Board of Directors and staff of Kuakini Foundation, I would like to
extend our deepest appreciation for the donation in the amount of \$10,000.00 received on Monday,
October 27, 2003. It was a pleasure meeting you, Reverend Fukushima, and Reverend Iijima. We
are grateful for the donation in honor of the 100th Anniversary of the arrival of the first Soto
ministers in Hawaii and for personally presenting the donation to Kuakini.

The gift will be credited towards Kuakini Foundation's new capital fund drive, Campaign
2005, which will assist Kuakini in the modernization of the surgical facilities and the construction
of a new three-story research building to house the future expansion of Kuakini's clinical research
initiatives through the Honolulu Heart Program, Japan-Hawaii Cancer Study, and related research
projects. The target goal for this new Campaign 2005 is \$13 million. Through your donation,
Kuakini will be able to continue providing high quality health care services to the Hawaii
community.

Please retain this letter as the receipt of your donation. We are required to state in this
letter that you have not received any goods or services in return for your contribution to Kuakini.

There are many worthy causes and charities that seek donations, therefore we appreciate
your selecting Kuakini. Thank you for your support and confidence in Kuakini. If we can be of
any assistance to you in the future, please feel free to call me at (808) 547-9231.

Sincerely,

KUAKINI FOUNDATION



Gary K. Kajiwara
President and Chief Executive Officer

347 NORTH KUALAPU STREET • HONOLULU, HAWAII 96817-9980 • TELEPHONE (808) 538-2334 • FAX (808) 547-9547 • www.kuakini.org
Kuakini Medical Center • Kuakini Genetic Clinic, Inc. • Kuakini Support Services, Inc. • Kuakini Foundation • Kuakini Development Corp.
Caring is Our Tradition

ハワイ開教100年寄付者名簿 2003年11月3日まで

ハワイ開教100年ご支援ご協力ありがとうございました。

順不同・敬称略

◆特別志納者名
(5万円以上)

大本山永平寺 南澤道人
世田谷区 豪徳寺
板橋区 松月院
鶴岡市 般若寺
豊島区 高岩寺
名古屋市 長松院
港区 泉岳寺

◆一般寄付者名

立川市 立川寺
江戸川区 円明寺
台東区 曹源寺
台東区 正洞院
港区 慈眼寺
八王子市 浄泉寺
台東区 福寿院
八千代市 観音寺
仙台市 秀林寺
中野区 鈴木豊子
藤枝市 洞雲寺
江東区 中央寺
富士見市 興禅寺
新宿区 全長寺
町田市 妙全院
鎌倉市 龍寶寺
新潟市 興源寺
文京区 喜運寺
横浜市 西有寺
多摩市 高西寺
港区 龍沢寺
亀岡市 苗秀寺
佐久市 桃源院
武蔵村山市 長圓寺
名古屋市 地藏寺
港区 源昌寺
中野区 保善寺
別海町 長福寺
嵐山町 東昌寺
オーシャントラベル
世田谷区 勝光院
岐阜県 正宗寺
安来市 松源寺
甲府市 長源寺
愛媛県 宝珠寺
秋田県 満福寺
港区 石夢工房

奥多摩町 周慶院
保土ヶ谷区 随流院
富士宮市 先照寺
八戸市 大乘寺
宮城県 建立寺
浜北市 高林寺
小田原市 宗久寺
盛岡市 祇陀寺
千葉県 瑞岩寺
三重県 長楽寺
江戸川区 黒木靖
豊田市 霊岩寺
鳥取市 天徳寺
八王子市 大泉寺
深谷市 昌福寺
大田原市 玄性寺
横浜市 興禅寺
本荘市 長禅寺
静岡県 大興寺
横浜市 倫勝寺
静岡市 山王寺
伊万里市 広厳寺
横浜市 岩本英男
飯能市 見光寺
東田川郡 永鷲寺
松前町 法徳寺
鶴岡市 龍蔵寺
静岡市 冷泉寺
茨城県 龍泉院
渋谷区 瑞円寺
鶴岡市 善宝寺
静岡市 法幢寺
JTB本社部営業一課
大阪市 妙寿寺
宮城県 城国寺
世田谷区 善養院
宮城県 通大寺
豊島区 全昌院
江東区 善徳寺
静岡県 梅林院
舞鶴市 祥雲寺
鶴岡市 田種院
鶴岡市 法林寺
鶴岡市 禅源寺
静岡市 一乗寺
港区 慈眼院
愛知学院大学 小出忠孝
静岡市 元長寺
秋田市 乗福寺

江東区 羅漢寺
福島県 雲月寺
三浦市 本瑞寺
山形県 延命寺
藤枝市 耕春院
焼津市 信香院
知多郡 宝珠寺
猪苗代町 天徳寺
天竜市 栄林寺
松山市 東栄寺
横浜市 東林寺
中蒲原郡 大榮寺
杉並区 観泉寺
千葉市 宝胤寺
最上郡 清林寺
余目町 宝泉寺
南秋田郡 自性院
鶴見区 中野東禅
駒澤大学高等学校 浦敏之
焼津市 成道寺
板橋区 黒川浩治
山形県 佐藤孝子
港区 光寶寺
静岡県 正福寺
蒲原町 白泉寺
杉並区 天桂寺
大井川町 高福寺
秩父市 常楽寺
杉並区 松田千春
黒部市 東信庵
台東区 法清寺
東北福祉大学
宮崎市 円南寺
矢板市 瑞雲院
名古屋市 (株)安江
下京区 松本屋
静岡市 昌林寺
大井川町 磐石寺
静岡市 瑞龍寺
仙台市 輪王寺
多摩市 観藏院
大曲市 大川寺
伊勢崎市 昌雲寺
静岡市 真如寺
静岡市 桃源寺
行田市 興徳寺
新宿区 大龍寺
台東区 出山寺
岐阜県 千手院

島田市 法林寺
西加茂郡 天徳寺
葛飾区 万福寺
日上市 鏡徳寺
松本市 広沢寺
世田谷区 福昌寺
新宿区 東長寺
中野区 宗清寺
横浜市 貞昌院
岩手県 大慈寺
足立区 正法庵
相模原市 梅宗寺
福島県 善通寺
岩手県 清雲院
秋田市 天龍寺
三条市 永明寺
八王子市 浅田依子
京都市 宗仙寺
さいたま市 東光寺
八王子市 龍見寺
三島市 宗徳院
北区 静勝寺
富士市 永明寺
板橋区 圓福寺
周南市 華嚴寺
豊橋市 西光寺
港区 俊朝寺
松本市 正麟寺
浦和区 中里貴子
静岡市 宗徳院
大府市 地藏寺
伊那市 金鳳寺
静岡市 龍泉院
新宿区 佐藤昭次郎
藤枝市 万松院
長崎県 和銅寺
岩手県 東海寺
池田市 慈恩寺
所沢市 松林寺
八王子市 清鏡寺
武蔵野市 観音院
静岡県 延命寺
大曲市 満友寺
台東区 永見寺
山形県 見龍寺